



屋根の下に建物を貫通する通り道と土間で区切られただけで配置されており、機能ごとに独立しているが、緩やかにつながり、思い思いの居場所が散りばめられた空間づくりとなっている。更に、大きな庇の

軒下空間、通り抜けの路地、重力換気を利用した吹き抜けなど、かつて日本家屋にあったパッシブな建築のよさが、随所に生み出されていた。二階建てで一部平屋の木造建築であるが、流通材を用いつつ天枰上



日建連表彰2024



第65回BCS賞

春日台センターセンター

選定理由 【選考委員】
陶器浩一・宮崎 浩・松村正人

春日台は一九六〇年代後半に開発され、その住宅群の中心に長い間生活を支えてきたスーパーや商店が配置されており、そこは古くからコミュニティの中心であった。宅地開発から約六〇年が経過し、住民も高齢化し賑わいを失っていたが、「春日台センターセンター」は、そのスーパー跡地に新たなまちのコミュニティの中心として計画された。

施設は、認知症グループホーム、デイサービス、障がい者就労支援、学童保育、ランドリーや総菜屋など多様なプログラムで構成されている。一般に、福祉施設は制度や機能を優先した合理的で管理のしやすいものが求められ、また、防犯や安全面で閉ざされた空間になることが多いが、ここではそれぞれが垣根なく並立し、高齢者だけでなく多世

代の人々の交流の場が生まれ、地域と一体となった存在となっている。これは、「共生・寛容・自律」という理念のもと、地域に開く福祉拠点のあり方を追求し続けてきた地元の社会福祉法人の若き理事長の想いによるもの大きい。

実現に当たり、事業者と設計者が協働して地域の人々とまちを考える任意団体「あいかわ暮らしラボ」を立ち上げて枠組みづくりから構築し、約三年かけて行政や土地所有者との折衝やまちの人々との対話を重ねながら丁寧に計画を進めてきた。

この建築の最大のポイントは、敷地境界を越えて設けられた、大きな軒下空間である。ここに、子どもから高齢者まで、お昼から夜まで様々な人が集い、交流が生まれており、世界各地の半屋外空間を研究してきた設計者の研究成果がカタチになっていた。また、各施設は、大きな

のトラスを並べることでハイサイドライトのある大スパン空間を架構すること、それらフレームを地組して立ち並べることなど、細部まで丁寧な仕事ぶりが数多く見られた。限られた予算ながら事業者、設計者に

寄り添いながら、なんとか実現しようとする施工者の強い信念も、この作品が生まれるうえで大きな力になったと思う。放課後に児童や生徒たちが自然に集まり、お年寄りが穏やかに過ごしている様子は、まさにドラマのような光景であった。制度や社会の枠組みを越え、人が人らしく振る舞うことを目指した地域に開かれた拠点としての建築のあり方に「建築がまちをつくり、社会を変える」とことを実感した。このような事例が、様々な課題を抱える地方・地域に広がり、地域の再生につながればと思う。



1. コモンズルーム 2. 居住エリア 3. 南西外観

春日台センターセンター 概要

- 所在地 神奈川県愛甲郡愛川町春日台3-6-38
- 建築主 (株)愛川舜寿会
- 設計者 teco(株)、(有)オーノJAPAN、(有)ZO設計室
- 施工者 榎栄港建設
- 竣工日 2022年1月31日

- 敷地面積 1,508㎡
- 建築面積 819㎡
- 延床面積 1,130㎡

- 階数 地上2階
- 構造 木造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページにアクセスして
ご覧ください。

《日建連表彰2024 第65回BCS賞受賞作品》 石川県立図書館／エスコンフィールドHOKKAIDO／Otemachi One／OKI本庄工場H1棟／春日台センターセンター／京都東山計画(山荘 京大和・パーク ハイアット 京都)／高槻城公園芸術文化劇場／東京ミッドタウン八重洲／ところざわサクラタウン／那須塩原市図書館 みるる／福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館／MIYASHITA PARK／明治大学創立140周年記念 和泉ラーニングスクエア／屋島山上交流拠点施設「やしまーる」／読売テレビ新社屋

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2024年で65回を数えました。